



学校だより

令和5年9月29日
横浜市立茅ヶ崎東小学校
校長 宮本 仁志
都筑区茅ヶ崎東2-11-1
TEL 943-0802・0803

和を以て貴しと為す

校長 宮本 仁志

先日の朝会で「和を以て貴しと為す」という言葉について話をしました。

この言葉は、日本人にとっては最も広く知られた言葉の一つだと思います。私も昔からよく聞いてきた言葉であり、好きな言葉のうちの一つです。しかし、この言葉の意味を「人とのつきあいでは、とにかくカドを立てないで仲良くするのが一番大切」と理解している人が多いのではないのでしょうか。

この言葉の出典は、聖徳太子の「憲法十七条」の第一条の冒頭に出てきます。『書紀』（平安時代中期）ではこの箇所を「和（やわら）ぐを以（も）て貴しとし…」と読み、そのあとは「忤（さか）ふることを無きを宗（むね）とせよ。…」と続いています。この言葉の主旨は、多くの日本人が抱いているイメージとはやや違っているようです。人はえてして気の合う仲間を作りやすく、気の合った仲間だけで集まってしまうがちです。その仲間の中では、見方や考え方も偏ってしまい、他の人たちの意見を聞き入れず、対立を深めてしまうということもあります。この言葉は、そのことを戒めているとされています。「対立を避けて、人々が互いに和らぎ睦まじく話し合いができれば、そこで得た合意は、自ずから道理にかない、何でも成しとげられる」ということであり、「ただ、相手に合わせて仲良くすればよいのではなく、道理や正義を正しく見出すために狭い仲間の中だけのこだわりを捨てなさい」と教えているだと言われています。

また、聖徳太子は、「人が自分の意見と違うからといって、怒ってはならない。人にはみな心があり、心があればそれぞれ正しいと思う考えがある。…自分は聖人ではなく、相手が愚人でもない。共に凡人なのである。それゆえ相手が怒ったら、省みて自分の過失を恐れよ。…」と話していて、「完全ではない人間が公共の利益を実現するためには、狭い仲間的なこだわりを捨てた公正な議論が欠かせず、そのためには各自が自分の利益だけを考えることはやめなければならない。」と伝えたいのではないのでしょうか。

子どもたちも学校生活の中では、仲間を作り、楽しく学習したり遊んだりする場面は数多くあります。その中で、対立をしてしまうこともあります。そういうときこそ、自分のことだけを考えるのではなく、全体のことを考え、みんなが幸せに過ごせるように、穏やかに話し合うことができるようになってほしいという話をしました。

本校の学校教育目標である「笑顔いっぱい 夢いっぱい 未来を創る東っ子」を皆様と育んでいきたいと思っております。保護者の皆様や地域の皆様の学校教育に対するご理解・ご協力に感謝いたします。引き続き、よろしく願いいたします。